

市内南西部に位置する長岡第八小学校区は、平安時代の古道久我阪、国の史跡である恵解山



▲地形条件と主な遺跡



▲小畑川と犬川の西岸一帯（南から）

古墳、安土桃山時代の勝龍寺城跡など、全国的に知られた遺跡が残っています。現在は、遺跡の周辺に、長岡京の調査研究の歩みを紹介した中山修一記念館、恵解山古墳から出土した鉄製武器を実物大の写真で復元した収蔵庫の展示室があります。

このほか、小畑川と犬川が合流する西岸の段丘上に分布する南粟ヶ塚遺跡から、後期旧石器時代の石器類、弥生時代中期の方形周溝墓群、長岡京期から平安時代の掘立柱建物群、鎌倉時代の土器埋納坑などが確認されています。当地は、長岡京廃都後に長岡京の南に移転した山城国府跡の候補地でもあります。

また、古文書や城郭史の研究によると、室町時代後期の勝龍寺城は、幕府の守護所（地方行政機関）となっており、中世乙訓の政治と軍事の拠点であったことがわかります。

このように、各時代の遺跡が連続と営まれ、乙訓の代表的な遺跡が立地する背景の一つに、地形条件の良さが上げられます。小畑川の川筋に沿って延びる低位段丘先端部の勝龍寺城と、犬川以南の段丘縁の氾濫原に立地する恵解山古墳は、桂川までつづく後背低地から見ると、その偉容がより際立って見えたでしょう。

一方、段丘上を通る古道と久我阪、小畑川から桂川、淀川に至る水陸の利便性は高く、これらの条件は、時代を越えて遺跡の立地に影響したと考えられます。